

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370300

研究課題名(和文)近代初期イングランド復讐劇による民衆心性の近代化への影響

研究課題名(英文)The Influence of Early Modern English Revenge Tragedy on Modernization of Folk Mentality

研究代表者

中村 友紀(Nakamura, Yuki)

関東学院大学・経営学部・教授

研究者番号：80529701

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、近代初期イングランド復讐劇による民衆心性への影響を明らかにすることを旨とするものである。成果としては以下2点がある。1．数多く制作されジャンルを形成した復讐劇作品群が共有していた常套的様式の表象としての作用とは、ルネサンス的という文化的ムーブメントに位置付けて検証すると、個人主義的な自己のアイデアを表現するものと考えられる。復讐劇は、個人概念を人々に明示する点で、近代的概念の媒体といえる。2．イングランド社会に見られた、演劇以外の他の芸術や娯楽、媒体における表象と復讐劇の関連性を見出し、それらの表象が、特に美学的・倫理的側面で、人々の近代的心性の形成に影響力を持ったと結論づけた。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to explore the influence of early modern English revenge plays on folk mentality. Based on the study results, the researcher offered two conclusions. First, the stock, typical patterns shared by many plays of this genre had certain effects as appealing representations, causing sympathy, antipathy, horror, abjection, reinforced sense of righteousness, and so on. When those patterns foregrounded in the movement of the Renaissance, revenge genre could be seen as a medium representing the idea of modern self and individualism. Second, based on the analysis of the relationships between revenge plays and other form of representation, such as paintings, other kinds of entertainments, and media, including press. The researcher concluded that those representations influenced on the modernization of folk mentality especially in the aesthetical and ethical realm.

研究分野：英文学

キーワード：演劇 近代初期イングランド 文化史 復讐劇 自己認識 心性 悪漢 ルネサンス

1. 研究開始当初の背景

この課題以前には、懲罰儀礼シャリヴァリなどの暴動・騒擾の表象を演劇作品に探る試みを行ってきた。その過程を通じて、演劇とコミュニティと近代的個人の自意識、この三者の関係を、文化史的ディスコースにおいて論じてきた。前回の科学研究期間(2011-2013年度)においては、ハーバマスの公共性理論やゴッフマンのコミュニケーション理論を援用して、演劇が創出するコミュニケーション・ネットワークが個人の自意識や個人と社会の関係性にどのような影響を及ぼしたかについて検証を進め、結論として、人々が階層を超えて、ひとまとまりのマスとして同じ受容経験をもちうる媒体としての劇場は、コミュニケーションのネットワークの場として機能し、誰にでも自律的に観客として参加する機会を与えることで、観客の近代的自意識の芽生えを助長したという見解を示した。演劇が創出した、観客が自律的存在としてコミュニケーションを行う場は、制限付きではあるが、一種のパブリック圏の初期形態と言える。

その中で得られた知見を、さらに復讐劇の分析に応用しようとしたのが今回の課題である。前研究期間に次なる課題として見出した問題点は、暴動・騒擾など集団行動に見られる個人の権利や自律(autonomy)の意識、あるいは返礼・互酬の思考が復讐的心性と同質ではないかという疑問、および、そうした復讐の表象をパブリック圏でマスとして共有する経験が、個人の自己認識に大きな変化をもたらしたのではないかという疑問であった。復讐劇の諸特徴が、個人の概念、特に自己認識を変え、近代的心性の形成の方向性を決定する一要因となった点の検証を本研究課題の主な内容とするに至った。

2. 研究の目的

本研究は、文化史的アプローチによるイングランド演劇研究として、民衆心性への一つの理解を提示することを目的とした。本研究期間の検証を目指したのは、近代初期イングランド社会において興隆を見た復讐劇が、個人や集団の心性をどのように表象しているか、また、受容する人々の心性の近代化にいかん作用したかという問題点であった。この問題点について、以下の4点から検証を進めた。

(1)復讐劇における民衆心性の表象を、テキストおよび史料から検証。

(2)(1)を、同時代の暴動・騒擾などの集団行動と比較して検証。

(3)劇場という境界に出現した限定的な意味でのパブリック圏が、個人や集団の心性の近代化に及ぼした影響を分析。

(4)観劇・上演に関する観客の反応が記された史料から、演劇の受容が観客にもたらした経験を考察。それを復讐劇受容の理解の手掛

かりにする。

以上の4点を明らかにすることで、復讐というテーマが近代初期アングロ文化圏の民衆心性の近代化を、いかなる方向へと助長したのかという問題への一定の結論を導き出すことを目的とした。

3. 研究の方法

演劇作品および社会史・文化史的意義を持つ史料の分析を中心に行った。一次資料である16-17世紀イングランドの復讐劇作品および、同時代のイングランドとフランスの各種史料を分析対象とし、検証を進めた。調査する文献は、復讐劇作品、および関連する劇や詩の作品に加え、復讐的心性を示す、個人間あるいは集団間の復讐的行動の事件に関わる史料、および、観客受容の解明につながる書簡や手記等の史料である。これら一次的テキストを、二次資料からの情報を援用しながら分析した。研究の展開と並行して、成果を順次発表し、発表に際して得たコメントや反応を参考に研究内容の深化を試みている。

4. 研究成果

当初より問題点として掲げていた、「近代初期イングランド社会において興隆を見た復讐劇が、個人や集団の心性をどのように表象しているか、また、受容する人々の心性の近代化にいかん作用したか」という問いには、一定の結論を得られた。それを、以下4点としてまとめる。

(1)復讐劇における民衆心性の表象を、復讐劇に加え絵画や多種の娯楽にも見出し、間テクスツ的分析を行った。特に、アブジェクション表象が、逆説的・反転的に人間性の近代的理想像への強い意識の表現として解読できる点を検証した。

(2)(1)を、同時代の暴動・騒擾などの集団行動に見る個人の自律性に結び付けて検証した。

(3)劇場がパブリック圏として個人や集団の心性の近代化を促進した点を検証した。

(4)演劇および他種の娯楽の観客の受容経験に上記(1)の意義を見出した。

以上の4点を明らかにすることで、復讐というテーマが近代初期アングロ文化圏の民衆心性に、近代的個人のイメージや人間性の理想の明確な像をもたらしたという結論を得た。

上記の研究内容は、国内外の学会等で肯定的な評価を受けた。なお、本課題から次の研究テーマ「近代的個人イメージの反転としての反価値の悪役表象」に着手し、現時点で複数の国際学会の審査を通っていることから、研究内容のこれまでの進展は、学界の基準に照らして通用するものであると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

“Limen of Humanity in Revenge Tragedies and Animal Entertainments in Early Modern England.”

中村友紀 『自然・人間・社会』査読有、第 62 号、59-72、2017 年

URL:

<https://kguopac.kanto-gakuin.ac.jp/webop/ac/NI30002128>

“Personified Abject in Early Modern English Revenge Tragedies.”

中村友紀 『比較文化研究』査読有、第 119 号、163-171、2016 年

「近代初期イングランドのシャリヴァリと演劇の暴動的心性」

中村友紀 『経済経営研究所年報』査読無、第 38 集、78-91、2016 年

<https://kguopac.kanto-gakuin.ac.jp/webop/ac/NI30001140>

“The Public Sphere and Cultural Infrastructure in Revenge Tragedies.”

中村友紀 『自然・人間・社会』査読有、第 60 号、21-36、2016 年

「近代初期イングランド演劇のパブリック圏：知の共有のネットワーク」

中村友紀 『比較文化研究』査読有、第 119 号、215-226、2015 年

「近代初期イングランド復讐劇のホラー表象分析のための理論的枠組みの検証」

中村友紀 『比較文化研究』査読有、第 116 号、11-21、2015 年

「『白い悪魔』の“the world turned upside-down”の表象と復讐劇のカタルシス」

中村友紀 『自然・人間・社会』査読有、第 56 号、81-105、2014 年

<https://kguopac.kanto-gakuin.ac.jp/webop/ac/NI30000456>

[学会発表](計 9 件)

タイトル:「近代初期イングランド復讐劇に見る個人像の近代初期性」

中村友紀 大会:日本比較文化学会3支部合同大会(同志社大学・京都府京都市)査読審査有、2016年12月

タイトル:「このイメージはどこから来たの:アメリカ的教養をグローバル・オーディエンスが共有すること」

中村友紀 大会:映画英語教育学会西日本支

部大会(京都大学・京都府京都市)シンポジウム発表、2016年11月

(国際学会口頭発表)タイトル:“Personified Abject in Early Modern English Revenge Tragedies.”

中村友紀 大会:European Society for English Studies(National University of Ireland, Galway:Galway,Ireland)査読審査有、2016年

(国際学会口頭発表)タイトル:“Limen of Humanity in revenge Tragedies and Animal Entertainments

in Early Modern England.”

中村友紀 大会:World Shakespeare Congress(Kings College, University of London:London,United Kingdom)査読審査有、2016年

タイトル:「近代初期イングランドのシャリヴァリと演劇の暴動的心性」

中村友紀 大会:日本比較文化学会関西支部例会(同志社大学・京都府京都市)査読審査有、2016年3月

タイトル:「近代初期イングランド演劇のパブリック圏:知の共有のネットワーク」

中村友紀 大会:日本比較文化学会3支部合同大会(高知大学・高知県高知市)査読審査有、2015年8月

(国際学会口頭発表)タイトル:“The Public Sphere and Cultural Infrastructure in Revenge Tragedies.”

中村友紀 大会:Shakespeare Theatre Conference(Waterloo University:Stratford,Canada)査読審査有、2015年

タイトル:「古典の材源との相違にみるイングランド復讐劇における個人概念」

中村友紀 大会:日本比較文化学会3支部合同大会(福岡医療短期大学・福岡県福岡市)査読審査有、2014年11月

タイトル:「Lex talionisのドラマトゥルギー:復讐劇の訴求力についての文化人類学的考察」

中村友紀 大会:日本比較文化学会全国大会(北九州国際会議場・福岡県北九州市)査読審査有、2014年6月

[図書](計 1 件)

『パブリック圏としてのイギリス演劇:シェイクスピアの時代の民衆とドラマ』

中村友紀(単著)、春風社、全 340 ページ、2016 年

[産業財産権]

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 友紀 (NAKAMURA, YUKI)
関東学院大学・経営学部・教授
研究者番号：80529701

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()